

レスキュー体験が人気

常陸大宮 消防フェア、親子ら参加



人気を集めた手足を使って進むレスキュー隊の体験。常陸大宮市姥賀町

まな体験コーナーがあり、多くの親子連れが参加した。消火器で放水したり、心臓マッサージを学んだり、火災での煙や地震での揺れの恐ろしさを肌で感じたり、「楽しい」「怖い」などと言いつつ、次々に体験していた。

長さ10メートルのロープに、手足で逆さにぶら下がって進むレスキュー隊の体験は、子どもたちに大人気。大宮西小6年の屋代由奈さん(12)は「面白かったけど、なかなか進まなかった」と話した。川澄節雄消防長は「消防の仕事を知ってもらうとともに、防災や防火の知識を学ぶのが目的。いざというときに役立ててほしい」と語った。

磯山邸で落語寄席

潮来17日 茨城・千葉の愛好家3人

会場では小学3、4年生を対象とした消防団ポスターコンクールの表彰式も行われた。(蛭田稔) 表彰者は次の通り。(敬

称略) 最優秀賞 三村晃大▽優秀賞 和田翔平 坪塚太、石本くるみ、木村優月、星野宙斗、綿引心悠、大崎芽、小野瀬由莉、佐藤真央、立原叶善

茨城・千葉の落語愛好家による「磯山有難亭寄席」が17日、潮来市潮来の水郷旧家磯山邸で開かれる。同市の地域おこし協力隊がプロデュースするもので、今回が初の試み。出演者一同は、「磯山邸の魅力を感じてもらいつつ、気軽に落語を楽しんでください」と話している。

戸市、茨城放送記者、鹿原徳夫さん(49)、千葉県香取市、会社員、細美忠彰さん(56)、牛久市、地域情報誌記者、泉水真紀さん(44)の3人。いずれも、都内や関

東一円で落語を教える活動を続けている三遊亭圓窓さんの教え子で、それぞれ、「有難亭良慈緒」「有難亭大小」「有難亭真仮名」写真右からという亭号で地域のイベントに参加するなどの活動を行っている。今回、潮来市地域おこし協力隊の佐藤彩希さん(27)が、鹿原さんと元同僚だったという縁で寄席が実現。当日は、佐藤さんらも小話を披露する予定という。当日、鹿原さんは「井戸の茶碗」、細美さんは「平林」泉水さんは「狸の札」を演じる予定。磯山寄席に向けて、鹿原さんは「磯山邸は非常に落ち着いた雰囲気、落語と合っている。街角から笑い声が聞こえてくるような、そんなまちづくりへのお手伝いができれば」と話した。磯山有難亭寄席は、17日午後1時開演、同1時半開演。木戸銭は無料。定員40人。問い合わせは市秘書政策課 ☎0299(63)1111。 (石川孝明)

若者視点で地域おこし

銚田市

高校生と大学生が連携してまちの魅力を探り、地域おこしの企画を立ち上げる取り組みが銚田市内で始まった。若者と「ソトモノ」の視点を生かし、情報発信の強化やふるさと意識の醸成などを図るのが狙い。学生たちは来年2月に開くまちづくりコンテストで企画を発表したい考えだ。

取り組みは、同市が「若者がいる課題を拾い上げたり、同市誇りを持つまち」をテーマに取り組む事業で、県立銚田二高の2年生と首都圏の大学生の計30人が参加。取材を通じて市内の農家や飲食店の経営者が感じて



地域の魅力を探る取材活動で、居酒屋を営む坂口弦太さん(右)の話を聞く若者たち=銚田市串挽

飲食店や農家取材 高校生、大学生が連携

取材活動は8、9の両日、5つのグループに分かれて実施した。中でも、イチゴ農家の「夢ファーム」(同市上釜)では、代表の柳沢友一さん(45)が、イチゴを作り始めた経緯や妥協のない栽培を説明。「子どもがやってみよう」と思える農業経営を「したい」と目標を語った。居酒屋「うま」(美味小屋) (同市串挽)では、店主の坂口弦太さん(36)が「昔からの知人たちとの触れ合いがある」と地元の良い点を強調した。取材先で若者たちは、事業者たちの苦労や仕事に対する思いなどを興味深そうに聞き入り、熱心にメモを取っていた。トマト農家と居酒屋を取材した銚田二高2年、小沼琴美さん(17)は「トマトにたくさん種類があることを知り、もっと広めたいと思った。子どもの好き嫌いをなくす商品開発ができなにかと感じた」と企画のイメージが浮かんだ様子。立教大4年、宇都宮康さん(22)は「高校生の関心と事業者の目的が重なる部分で、どれだけの企画が作れるか挑戦したい」と意欲を見せた。今後は、若者たちがメールなどを通じて、事業者も交えて議論を重ね、企画を完成させる。市まちづくり推進課によると、同コンテストは来年2月に開催する予定という。(大平賢一)

地域ビジョンを考え 観光業者ら意見交換

北茨城

北茨城市の観光振興を図るための観光戦略ワークショップが8日、同市関本町福田の市生涯学習センター「とれふる」で開かれた。市内の観光や飲食、宿泊施設の関係者ら約20人が参加して、市の地域ビジョンなどについて考えを提出した。

参加者は、同市の地域ビジョン▽同市が他地域に負けない強み▽ターゲットにする顧客などの各項目について意見を出していった。意見は来月開催の同市観光資源調査協議会(渡辺一洋委員長)が、2019年度以降に取り組んでいくアクションプラン策定に向けた素案に活用する。



後半は、秀明大学観光ビジネス学部の市川友英教授が、「地域における誘客できる『観光資源』のキーワードを考えよう」と題して講演した。観光客が必ず集まるキーワードとして、「本物かどつか」「オンラインワンか」「ナンバーワンか」の三つをポイントに挙げ、「皆でもう一度、観光資源を掘り起こしてほしい」と呼び掛けた。

県北鹿行



■日立支社
日立市
高萩市
北茨城市
☎0294(22)4466
ファクス(22)4480

■常陸太田支局
常陸太田市
☎0294(72)0201
ファクス(72)0440

■常陸大宮・
大子支局
常陸大宮市
大子町
☎0295(53)0040
ファクス(53)8848

■鹿嶋支社
鹿嶋市
神栖市
☎0299(82)1730
ファクス(82)2700